整理番号

D－2－3　　920

標 題 名

野菜関係のチラシ２件

著 者 名

発行者名

宮城県

発 行 年

昭和 23,24 頃

製作年月

平成２９年３月

野 菜 関 係 の ち ら し

昭和二十三年、二十四年頃

宮 城 県

仙臺白菜の振興をはかりませう

仙臺白菜早期出荷栽培要領

A 生産時期を繰り上げるため特に留意すべき事項

一、品種は耐病性の強いものの選擇に注意すること
二、播種期は地域、土地環境を考慮し遲きに過ぎないこと
三、播種期を早めると共に病害虫の發生防除に努めること
四、幼苗期の徒長を防ぐための肥培並に旱害を受け易いから灌水に注意すること
五、肥料には充分な堆肥と共に有機質肥料(魚粕、油粕、大豆粕)の施用に努めること
六、速効性の化學肥料の施用(硫安)上流乏、徒長、肥切れ等を考慮し施用に注意を拂うこと

B 栽培

一、品種の選擇

品種は松島二號が適當である。

此の品種は昭和四年宮城縣立農事試驗場で改良された品種で芝罘白菜の改良種とも言うべき品種で現在栽培されている品種中耐病性最も強く且つ結球が容易である。他の包頭連或は山東系に比して組織稍粗剛な感があるも北支系の品種であるので他の何れのものよりも寒氣に強く輸送貯藏に耐える特長がある。

二、種子

完熟して黒褐色を呈し充實豐富円なものがよい。發芽年限は貯藏方法にもよるが三年位までは差支ない。

一合の重量が約三二匁一勺約三、五〇〇粒、反當播種量一、五合—二合を要する。

三、適地の選擇

(1) 連作は病害や害虫の發生が多いから四—五年休栽する様注意すること
(2) 排水のよい土層深い土地が望ましい
(3) 全生育中水分の吸收が多いので保水力のある壤土或は粘壤土に好適する。輕鬆な砂質地は乾害を受け易いから避けるがよい

有機質に富む肥沃な畑地が望ましい

(4) 結球白菜は中性或は微アルカリ性の土壤を好むから酸性土壤には特に肥料石灰の施用に努めること

四、整地

播種の一週間—十日位前に前作物の殘滓を整理し耕耘後四—五日風乾し更耕し土塊を碎き地均しをして畦立てをする

畦幅 二尺四—五寸 株間 一尺五寸—一尺八寸

肥沃地、排水不良地(地下水の高い地帶)は畦幅を稍廣め(二尺八寸内外)畦は稍高目にする。

五、播種

(1) 播種期

仙南地方 八月上旬—八月十五日
仙北地方 七月下旬—八月十日

播種期遲れると結球の緊り惡く收量が少く收穫期が遲れる。同一地域でも土質によつて播種期の早晩を考慮せねばならない。

砂質地、地下水の高い地方は稍遲れるがよい。

播種期に關する試驗

播種期	收穫期 月日	株數比率 結球株 %	株數比率 不結球 %	株數比率 病株 %	一個平均 總重 匁	一個平均 正味重 匁	一個平均 歩合 %	反當收量 數量 貫	反當收量 三百匁以上 貫	同上比率 同數量 %	同上比率 三百匁以上 %
七月五日	九、二三	五八、八	五、三	三四、二	七九三	四五七	五七、六	六五九、九	六〇三、四	六八、七	六八、六
七月十五日	九、二七	六〇、六	七、三	三二、一	八五六	五四四	六三、五	八〇六、九	七八三、六	八四、〇	八九、二
七月廿五日	一〇、一四	八二、四	四、三	一三、一	九〇五	五二〇	五七、四	九四九、一	八六九、九	九八、八	九九、〇
八月五日	一〇、一四	八八、三	〇、七	一一、〇	七五三	四八三	六四、一	九六〇、四	九七八、五	一〇〇、〇	一〇〇、〇
八月十五日	一一、六	八八、六	一〇、二	一、二	五二二	三五三	六七、四	七八七、九	六五九、六	八二、〇	七五、〇
八月廿五日	一三、五	七四、四	二五、六	—	四四二	二八三	六四、〇	四七二、三	三七〇、六	四九、二	四二、二
九月五日	一三、五	二一、八	七八、二	—	二七九	一一三	四〇、五	一五〇、〇	一一四、三	一五、七	一三、〇

(2) 播種方法

播種の二—三日前施肥し播種準備をなす。株間毎に徑五—六寸の播ツボをつくり腐熟した下肥を五—六倍に稀釋したものを播き肥として施し一ケ所十粒位播種し覆土する。發芽迄の障害を防ぐため青草又は鋸屑を覆う。

(3) 發芽後の手入

(イ) 播種後二晝夜で發芽するから敷草の除去に注意し徒長を防ぐこと
(ロ) 密生部の間引を早め徒長を防ぐ
(ハ) 發芽當時の旱魃を防ぐため灌水に注意すること

灌水は夕方株の側方に穴を掘り充分灌水し上部を被覆する。

六、間引

直播の場合一ケ所一本立にするまで三—四回に亘り間引きをして素質のよいものを殘す。

一回 發芽後二—三日で一箇所七—八本とす。
二回 一回後一週間で一ケ所五—六本になる樣にする。
三回 二回間引後十日位で三—四本とする。
四回 三回後十日位で一株一本とする。

間引に當つては次の條件に注意し不良なものを除く樣にする。

1 幼莖の短いものがよい
2 葉の色濃い節間短いものがよい
3 葉柄、中肋が扁平で着色しないものがよい(雜種は赤、紫を帶びる)
4 葉面に多少皺があつて葉緣に欠刻のないものがよい
5 葉の表裏に粗毛のあるものがよい

七、肥料

根も地上部の組織と同樣甚だ纖弱であるから肥培上次の各項に注意されたい。

(1) 收穫期に達する迄肥切れしない樣に注意すること
(2) 幼苗期に速効性肥料を多施しない樣にし生育に應じて肥効のある樣にすること
(3) 三要素成分中窒素に偏することなく燐酸、加里肥料の併用に努め特に病害の發生を防止すること

窒素 六—七貫 燐酸 四—五貫 加里 六—七貫(反當)

(4) 酸性土壤(特に火山灰質、洪積地帶)には肥料石灰の施用に努め又燐酸の肥効を高める爲め特に留意すること。
(5) 化學肥料にのみ依存しないで有機質肥料(油粕類)の施用に努める
(6) 堆肥はよく腐熟したものを反當四—五百貫施用する
(7) 速効性(特に硫安)の肥料は早期多施することのない樣にする。
(8) 石灰窒素は播種前全面に撒布する

施肥の一例

	總量	基肥	追肥 一	追肥 二	追肥 二	追肥 四	備考
堆肥	四〇〇、〇貫	四〇〇、〇貫	—	—	—	—	
石灰窒素	一三、〇	一三、〇	—	—	—	—	窒素 六、九〇〇
油粕類	一〇、〇	—	—	五、〇	—	—	燐酸 四、一一〇
過石	一八、〇	七、〇	六、〇	五、〇	—	—	加里 六、一三〇
硫安	六、〇	—	—	三、〇	三、〇	二、〇	
硫酸加里	一〇、〇	五、〇	五、〇	—	—	—	

火山灰質土壤洪積土壤地帶その他酸度の高い地方は過石の代りに溶成燐肥が望ましい

一回は播種後二週間位後畦の一側に淺溝を切つて施し二回目は更に二週間後反對側に施す。三回目は株間に淺い穴を掘り施す。その以後は水肥として株間に施す。

八、管理

(1) 中耕 幼苗期には努めて株の周圍を淺く中耕すると共に追肥の都度、降雨後は努めて中耕し根の活動を強めること
(2) 結束
(イ) 風による損傷 (ロ) 收穫その他の作業を便にする (ハ) 寒霜を防ぐ以上の目的の爲め結球したものを外葉から結束する

九、收穫

結球完了したものから隨時收穫する。外葉を除いて莖は切り直し檢査規格に應じ選別荷造をする。降雨後直ちに收穫すると荷傷みが多いから水分の發散後にする。

一〇、病害虫防除

(1) 病害豫防

白菜の病害には腐敗病、根瘤病、白斑病、黒斑病、細菌性黒斑病露菌病等があるが藥劑で防除することが困難であるから次の事項に注意されたい。

(イ) 排水に努める (ロ) 連作を避ける(五、六年休栽) (ハ) 窒素肥料の偏用を避け肥料配合に注意すること
(ニ) 蚜虫、黄條蚤虫等の害虫は早く驅除する
(ホ) 酸度の強い所は努めてその矯正を計ること

(2) 害虫防除

(A) 黄條蚤虫 さるはむし
(イ) 播種直後或は發芽後 除虫菊木灰又はBHC粉劑(〇、五%)を撒布する。
(ロ) DDT(乳劑〇、〇三% 水和劑〇、〇三% 粉劑〇、五%)又はBHC(水和劑〇、〇四%)を發芽當時から二—三回撒布す
(ハ) 本葉四—五枚の頃から砒酸石灰(水一斗に二〇—三〇匁)を撒布する

(B) 夜盗虫、青虫、「かぶらばち」の幼虫
砒酸鉛(水一斗に二—三〇匁) DDT(乳劑二〇%の五〇〇倍液) BHC(〇、五%粉劑)を撒布す。

(C) 蚜虫
發生の初期に驅除する樣に注意す。
(イ) 除虫菊石ケン液(除虫菊二〇匁粉石ケン二〇匁を水一斗にとかす)
(ロ) 硫酸ニコチン八〇〇倍—一、〇〇〇倍液 (ハ) BHC水和劑〇、〇二% 粉劑〇、五%

(D)
(イ) 根切虫(「かぶらやが」の幼虫)夜盗虫 株の周圍にBHC、或はDDTの粉劑を撒布する (ロ) 早朝補殺する

早期播種に努めませう

宮城縣

馬鈴薯の栽培法

凶作防止の方法として爲すべき事は色々あるが農家の收入增加の點より畑地の利用增加を計ること丶一方必然的に起る本年六、七月頃の食糧窮乏を未然に防止する方法として馬鈴薯の栽培增殖及其の改善を計ることが最も喫緊の事である。

本縣馬鈴薯は北海道青森縣と共に品質優良にて其の生産額も又全國第三位である　出荷の點より見るに關東產のものは二、三月頃に至れば品質粗惡となり又北海道　青森縣は其の時期には積雪と凍害の爲出荷不可能なる爲市場に於ては甚しく品不足を生ずる際に本縣に於ては充分良品を出荷し得る優位置にあるを以て此の時期の出荷を目的として最も有望作物である。

又之れを代用食物の點から見るに反當六〇〇貫の收穫を見るとして其の澱粉含有量より米に換算すると約二石二斗に相當する　其の外此の作物の代用作物として他作物に優つて居る點は僅か三、四月の短期間に收穫を見ること出來る點である。

以上の點から見るに本縣の如き地方に於ては畑地利用作物として又一旦凶作の時には代用食作物として缺くことの出來ぬ作物であるから今後大に改良增產の必要がある。

品種

本縣に於て栽培して居る品種は相當多くあるが縣に於ては一般栽培品種として收量の多いしかも品質優良にて市場に出荷して歡迎さるゝもの即ち早生種として男爵晩生種としては三圓種を奬勵品種に決定奬勵して居る。

風土

馬鈴薯は冷涼なる氣候の地方に栽培されたる際には品質優良なるものを産出するもので日本に於ては北海道青森縣及本縣產のものが特に品質優良なる點に於て有名である又其の收量も多いのである。

馬鈴薯栽培には其の土質を選ぶことが他の作物に比較して尠ない　肥沃で排水の良い壤土砂質　壤土が適當して居るが本縣山手地方の不良土地帶に於ても其の栽培管理に注意すると相當收量多く品質も相當のものを收穫することの出來る作物である　但し每年同一畑に栽培すると病虫害の發生多い優品を多く產することが出來ぬから二、三年休閑する必要がある。

種薯

種薯は秋薯即ち二度子を用ふると收量が多いものであるが品質が劣るから都會附近に於て早取り販賣するには適當のものであるが中央市場に出荷するには不適當である　市場出荷又は長く貯藏し食用に供するものは七月頃に收穫し土中に貯藏したものが良い　又馬鈴薯は同一地で栽培を繰返すと萎縮病の發生が多く收量を減ずるものであるから二、三年には種薯を遠くの地方又は無病地から取寄せ更新せねばならない。

種薯の適當な大きさは一個の重量十五匁乃至三十匁位のものが適當である　小さいものは收量が少くないから成可く大きなものを用ひ一個十五匁以下のものは不適當である　大きな種薯は其の先端の眼の多い部分を切り縱斷し切口に木灰　石灰を塗布して切口の乾燥後植付ける　一反歩に要する種薯は約四十貫內外である。

植付

馬鈴薯は發芽後霜害の無い限り早植を行ふ方が良い　本縣では大體三月下旬乃至四月上旬が適當である四月中旬になると著しく收穫量を減ずる。

植付を行ふ畑は一週間位前に良く耕耘整地し畦巾二尺乃至二尺五寸とし深さ三寸の溝を堀り基肥を肥し間土し一週間後に基肥を施した側方に一尺二寸內外の株間とし薯を植えるのである　植付後の覆土は土質に依つて異るも普通二乃至三寸位で砂土又不良土地帶の輕い土は三寸乃至三寸五分粘土質は一寸五分位で良い。

肥料

馬鈴薯の肥料として窒素肥料は最も重要なものであるが之れを多く施すと莖葉の徒長を來し病害に罹り易い故燐酸　加里肥料の配合に注意せねばならぬ　燐酸肥料は馬鈴薯の莖葉を堅くし薯の貯藏力を强める又加里肥料は莖葉の發達を助け澱粉の構成を盛んにし品質を向上させるに大切な肥料である。

標準肥料（反當量）

肥料名	總量	基肥	追肥 一回	追肥 二回
			頁	頁
堆肥	二五〇、〇〇〇 貫	二五〇、〇〇〇 貫		
人糞尿	二五〇、〇〇〇	—	一三〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
大豆粕	二〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	八、〇〇〇	
過石	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
木灰	二八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	八、〇〇〇	

備考　追肥は發芽して一寸乃至三寸位に伸長した時に施し二回目には莖長七寸乃至八寸內外に伸長した時に施す

中耕土寄

土壤を膨軟にして薯の發達を促進させる爲に二回乃至三回中耕及土寄を行ふ必要がある　其の時期は第一回目の追肥の時　第二回目の追肥の時及外莖の一尺內外の時に中耕を行ひ第三回の時には三寸乃至四寸位の程度に土寄せをする。

除蘗

馬鈴薯は他の作物と同樣に莖葉が餘り繁茂すると薯の發育が不良になるものであるから莖葉が二、三寸に伸張した頃充實したものを二、三本殘して他のものは種薯を動かさない樣に注意しながら取除くのである。

收穫

馬鈴薯は約三、四月で生育が止り莖葉が漸次黃變するから此の頃に收穫する　畑地の濕つて居る時に收穫すると腐敗し易い故晴天の二、三日續いて畑地の充分乾燥した時に收穫することが大切である　收穫した薯は日光の直射しない場所に擴げて表面の水分を乾した後貯藏又は販賣する樣にする。

貯藏

馬鈴薯を貯藏するには次の樣な事を注意しなければならない。

(イ) 貯藏用のものは畑地の排水を計り燐酸　加里肥料を施し病害の防除を完全に行はなければならない。

(ロ) 收穫に注意すること

(ハ) 病斑又は傷のあるものは除き冷涼な處に二、三日蔭乾にする事

(ニ) 貯藏方法は塵埃　泥土を除き俵詰とし倉庫に入れ置くその倉庫は夏期冷涼にして乾燥し冬期凍害の虞なきこと　倉庫以外即ち室外に貯藏する時には排水の良い場所に巾四尺乃至五尺深さ一尺內外長さ適宜の溝を堀つて周圍及溝底に麥稈を敷き薯を積み重ね上部には麥稈を被ひ所々に節を拔いた竹を挿入して通氣孔を設けて一尺五寸乃至二尺位被土し雨水の入らぬ樣にする。

病虫害

疫病

馬鈴薯の栽培期間中最も多く發生する普遍的の病害にして排水の惡い畑に栽培したもの又は窒素肥料を多く施し軟弱な發育をした場合に特に發生が多い豫防方法としては畑地の選定　肥料の配合等に注意し健全なる發育を計る外莖葉の三、四寸位伸長せる頃より四斗式等量石灰ボルドウ液を三乃至四回撒布すると殆んど豫防が出來る　又石灰ボルドウ液を撒布すると石灰ボルドウ液中の銅に依りて莖葉を刺戟し薯の發育を良くし收穫を增加するから是非三、四回の撒布が必要である。

石灰ボルドウ液撒布の成績

一例

供試用品種　北海道產男爵　岩沼農事試驗場病虫部調上（昭和七年）

試驗別	播種期	收穫期	反當收量	減收率
三斗式石灰ボルドウ液三回撒布 同 四回撒布	四月五日	七月二十九日	一、一一四、二六〇 貫 以上の內二〇匁以上のもの 八九二、八二〇 貫	一七七
四斗式石灰ボルドウ液三回撒布 同 四回撒布	同 同	同 同	一、〇一八、五六〇 八六五、八〇〇	一六二
無撒布	同	同	九九二、二八〇 一、二七六、二〇〇 六二七、九〇〇	一五七 一〇七九、一〇〇 二〇三 五一七、二〇〇 一〇〇

藥劑撒布

第一回　五月二十四日　第二回　六月十日　第三回　六月二十二日　第四回　七月十二日

三斗式四回區收量少なきは萎縮病の發生多き爲である。

二例

供試用品種　青森縣產　三圓種　柴田郡村田町薄木の委託試驗地（昭和五年）

試驗別	播種期	收穫期	反當收量	同上の內二〇匁以上のもの	增收率
三斗式石灰ボルドウ液三回撒布 同 四回撒布	四月二日	七月二十五日	八四二、四〇〇 貫	六七五、〇〇〇 貫	一六七
四斗式石灰ボルドウ液三回撒布 同 四回撒布	同 同	同 同	九六六、六〇〇 八六一、〇〇〇	七三六、〇〇〇 六一三、六〇〇	一九七 一七〇
無撒布	同	同	九一八、〇〇〇 五〇四、〇〇〇	七五〇、六〇〇 三八三、四〇〇	一八二 一〇〇

藥劑撒布期

第一回　五月十三日　第二回　五月二十七日　第三回　六月十日　第四回　六月二十四日

四斗式四回區は最も排水良の爲薯の肥大を阻害した。

瘡痂病

薯の表面に褐色の痘痕疣狀の病斑が出來て品質を非常に低下する病害である　此の病害は土中に殘つて傳染するから連作をすると發病が多い　豫防法としては連作をせざること又種薯を約二千倍の昇汞水に一時間乃至二時間位浸し乾した後に植付ける樣にする　又本病はアルカリの强い畑に發生が多いから餘り多く石灰を施すことは避けなければならない。

黑痣病

馬鈴薯の表面に少し凹める黑色の斑點を生じ漸次擴大し著しく品質を損する　莖及塊莖の側枝に發生する時には褐色の病斑を生ずる　本病も又瘡痂と同樣土壤傳染して發芽の際嫩芽に發生すると著しく發芽を害し甚しく減收する　豫防法として連作を避けると同時に種薯をフォルマリンの百倍乃至百五十倍液に五分乃至十分浸漬消毒して蔭乾の上植付ける。

以上の外栽培上最も恐れられて居る萎縮病は葉を捲縮又は萎縮して黃色又は暗黃色となり薯の發育は甚しく惡く小薯のみとなる　此の病源は今尙不明であるが蚜虫に依つて傳染せらる病害である　豫防法は二、三年に一回病害の發生せぬ土地に生產したる種薯を以て更新することが大切である。

害虫

僞瓢蟲（てんとうむしだまし）

此の虫は馬鈴薯の外茄子　胡瓜　菜豆　南瓜等を喰害し被害の甚しきもので之れの驅除を怠る時は甚しく薯の發育を阻害し減收するものである　驅除法は病害防除の爲石灰ボルドウ液を撒布する時石灰ボルドウ液撒布液一斗に對し砒酸鉛を二十匁加用して撒布する。

蚜蟲

蚜蟲は最も發生の多いもので此の蟲は直接生育を弱めるが又萎縮病の傳染媒介をするものであるから發生の始めにデリス石鹼除虫菊又は硫酸ニコチンの一千倍液で驅除することが必要である。

宮城縣經濟部農務課

植物防疫資料館
C-504-4046~47
寄贈
P
2-3
920